

令和6年度 学校評価

そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
<p>1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</p> <p>学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。(感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)</p>	<p>2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進</p> <p>学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。</p>	<p>1について、児童の1割が「わからない」と回答している。児童への発問が「あなたは…」で問うているため、学校生活以外の部分も結果に反映している可能性がある。</p> <p>2について、児童の2割程度が自分から取り組めていない、自信がないと感じている。まとめや振り返りの視点を明示して子どもたちが自覚できるようにしていく必要がある。</p>
<p>(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進</p> <p>3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進</p> <p>学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のまわり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)</p>		
<p>(2) こども一人一人を尊重した教育の推進</p> <p>4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</p> <p>学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。</p>		<p>4については、他の項目と比較して教職員の評価が低めなのは「個別最適化」のとらえ方の難しさがあると思う。研修を重ねていく必要があると思われる。</p> <p>5について、教職員はほぼ取り組んでいると感じているが、児童の中には実感が持てない子もいると思われる。子供同士の意見を適切につなぐことができるような教師のスキルを磨く必要がある。</p>
<p>(2) こども一人一人を尊重した教育の推進</p> <p>6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実</p> <p>学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。</p>		
<p>6について、学校側の取り組みと保護者の要望とが合っていない面があると思われる。必要に応じて啓発資料を配布するなどの対応について考えていく。</p> <p>7について、以前と比べて親どうしで話す機会が減り、つながりが希薄になったことで不安を感じている保護者も一定数いると考えられる。学校の様子をより分かりやすく伝えていくことが今後の課題と言える。</p>		

(3) 最適な教育環境の整備																																										
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備																																									
<p>学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。</p>	<p>8について、学校側は啓発に力を入れていると感じているが、保護者の1割程度には浸透していない。保護者からは見えない部分も多いのでお便り等を通して発信に努めていく。</p> <p>9について、児童の1割が「わからない」と回答している。運動会やどんどこや、各学年での活動において大いに関わっていることやつながっていることを伝え、子どもたちが実感できるように努めていく。</p>																																								
<table border="1"> <caption>Item 8: Safety and安心 environment promotion</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Don't know (Grey)</th> <th>Other (Yellow)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>55%</td> <td>40%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>55%</td> <td>40%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)	保護者	40%	55%	3%	2%	児童生徒	55%	40%	3%	2%	教職員	55%	40%	3%	2%	<table border="1"> <caption>Item 9: Collaboration with community and family</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Don't know (Grey)</th> <th>Other (Yellow)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>35%</td> <td>60%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>50%</td> <td>45%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>50%</td> <td>45%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)	保護者	35%	60%	3%	2%	児童生徒	50%	45%	3%	2%	教職員	50%	45%	3%	2%	
Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)																																						
保護者	40%	55%	3%	2%																																						
児童生徒	55%	40%	3%	2%																																						
教職員	55%	40%	3%	2%																																						
Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)																																						
保護者	35%	60%	3%	2%																																						
児童生徒	50%	45%	3%	2%																																						
教職員	50%	45%	3%	2%																																						

(4) こどものいのちと権利の擁護																						
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり																						
<p>学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。</p>		<p>10について、学期に1回、面談の時間を設けているが児童の2割強が低い評価となっている。形式的な取り組みではなく、子どもたちが自然な雰囲気の中相談ができるような環境を作っていく。保護者や児童からすると判断に迷うため「わからない」の割合が多いと考えられる。</p>																				
<table border="1"> <caption>Item 10: Best interests of children</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Don't know (Grey)</th> <th>Other (Yellow)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>25%</td> <td>70%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>35%</td> <td>60%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)	保護者	25%	70%	3%	2%	児童生徒	35%	60%	3%	2%	教職員	40%	55%	3%	2%		
Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)																		
保護者	25%	70%	3%	2%																		
児童生徒	35%	60%	3%	2%																		
教職員	40%	55%	3%	2%																		

独自項目																																										
独自項目1	独自項目2																																									
<p>子どもたちは、進んで気持ちのよいあいさつができていますか。</p>	0																																									
<table border="1"> <caption>Independent Item 1: Greeting</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Don't know (Grey)</th> <th>Other (Yellow)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>10%</td> <td>85%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>50%</td> <td>45%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>10%</td> <td>85%</td> <td>3%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)	保護者	10%	85%	3%	2%	児童生徒	50%	45%	3%	2%	教職員	10%	85%	3%	2%	<table border="1"> <caption>Independent Item 2: Empty chart</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Don't know (Grey)</th> <th>Other (Yellow)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)	保護者	0%	0%	0%	0%	児童生徒	0%	0%	0%	0%	教職員	0%	0%	0%	0%	<p>結果を見ると、教職員と児童の意識の差が大きい。この結果を示しながら「気持ちのよいあいさつとは？」について学級活動等で話し合っている機会を設けたい。</p> <p>教職員からのみでなく、委員会活動等で児童側から「気持ちのよいあいさつ」について意見が出るようにしていきたい。</p>
Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)																																						
保護者	10%	85%	3%	2%																																						
児童生徒	50%	45%	3%	2%																																						
教職員	10%	85%	3%	2%																																						
Category	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	Other (Yellow)																																						
保護者	0%	0%	0%	0%																																						
児童生徒	0%	0%	0%	0%																																						
教職員	0%	0%	0%	0%																																						

来年度の具体的な取組について

- 60周年のイベントがあった昨年と比べて、今年度は地域とのかかわりを実感できなかった面もあると思われるが、各学年で地域の方々を招いたり協力を仰いだりする活動やゲストティーチャーから教わるなどの体験的な活動は充実しているので、継続していきたい。
- 学校行事や生活科、総合的な学習などにおける活動など、コロナ禍を経てなくなったり復活したりした取り組みがある。改めて必要な取り組みを再検討し、子どもたちにとって効果が高い取り組みを企画していく。
- 今回の調査を通して、全体的に教職員の思いや取り組みの意図が子どもたちに伝わっていない面がある。フィードバックの活動を充実させるなどして、子どもたちに学習後に「自分が変わった」という実感を持たせるよう努めたい。

小中学校関係者評価

- あいさつの項目について、教職員の評価は校内での全体的な印象からの結果と推察されるが、地域で生活している者の印象としてはあいさつはよくできているケースが多いと感じている。その他の項目についても保護者・児童の「そう思わない」等の回答の内容を分析して解決に努めてもらいたい。
- 関わりがある子どもたちの実態から、感じる気持ちや計算するスキルはあるが、それを言葉や文章にして表現できる力が以前と比べて低下しているように感じる。読書量の低下が背景にあるのかもしれないが、書く作業で行き詰まるケースが多い。項目にもあるような対話を通して表現力を高めていくことが重要になってくると思う。
- 地域内での子どもたちの優しい行動をよく目にする。地域の中から転居の話があっても尾ノ上校区にいたいと考えられている家庭からの相談が何件もあった。この校区の雰囲気を維持していけたらと思う。